日本一の力持ち「三ノ宮卯之助」

渡邊 和照

三ノ宮卯之助は、今から二〇〇年以上前の江戸時代、文化四年（一八〇七）卯の年に現在の越谷市三野宮に生れた日本一の力持ちです。

かけ出しの頃の卯之助は三ノ宮橋のそばに住んでいたので、三橋卯之助（さんのはこうのすけ）と呼ばれていました。

文政八年（一八二五）、卯之助数え年十九才の時、岩槻藩領の飛び地、太田袋（現在の久喜市太田袋）の琴平神社で卯之助の師匠となる長宮村（現在のさいたま市岩槻区長宮）出身の肥田文八なども加わって五十貫目（約二〇〇kg）の力石を奉納するために持ち上げています。

卯之助の力石は全国にあり、越谷市内には生れ故郷の三ノ宮香取神社や越ヶ谷の久伊豆神社にもあります。

又、卯之助グループが巡業した頃、江戸浅草・合力稲荷神社、川崎大師、鎌倉・鶴岡八幡宮の前、長野県下諏訪町の諏訪大社、兵庫県姫路・魚吹八幡神社などにあり、魚吹八幡神社には、卯之助の大きな石像が立てられています。

日本の最重量の力石は、卯之助の持ち上げた桶川市の稲荷神社にある六一〇kgの重量です。お膝元の越谷の三ノ宮香取神社のものは五二〇kgでした。

最後に越谷ロータリークラブの役員並びに会員の皆様方のお蔭をもちまして、越谷市中央市民会館の前庭中央に「三ノ宮卯之助頭彰碑」が建立されました事に対しまして、心より御礼並びに感謝申し上げる次第でございます。

◎今回の投稿につきましては、「日本一の力持ち三ノ宮卯之助」パンフレット編集委員会の皆様に御礼申し上げます。

出典

①高島 愼助・高崎 力（二〇〇四）「〈論説〉三之宮卯之助の力石（二）」
『四日市大学論集』第十七巻一号 抜書 四五～七六頁 附属二頁
②ＮＰＯ法人越谷市郷土研究会編（二〇二一）「日本一の力持ち 三ノ宮卯之助」
パンフレット ＮＰＯ法人越谷市郷土研究会
（加藤 幸一氏が一～六頁、八頁を執筆）